

青年海外協力隊神奈川県 OB 会 (KOCV) 通常総会 2011

[プログラム]

1. 日時・場所

| | | |
|---------------------------|--------------------------|-------------|
| 平成 23 年 6 月 25 日 (土) | J I C A 横浜国際センター 1 階 会議室 | |
| 受付 | | 13:15~ |
| 第一部 青年海外協力隊神奈川県 OB 会通常総会 | | 13:30~15:00 |
| 第二部 講演会 浅井 久仁臣 (あさい くにおみ) | | 15:15~16:45 |
| (仮)「世界の紛争地から復興を学ぶ」 | | |
| | | 17:30~ 懇親会 |

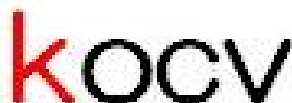
2. スケジュール (次第)

第一部 青年海外協力隊神奈川県 OB 会通常総会

- 1、会長あいさつ
- 2、来賓あいさつ
- 3、参加者紹介
- 4、平成 22 年度事業報告
セネガル女性グループによる「思春期女性インフォーマル教育プロジェクト」の活動報告を行います。(飯山亮平)
- 5、平成 22 年度決算報告・監査報告
- 6、役員等選出
- 7、平成 23 年度事業予定 (案)
- 8、平成 23 年度収支予算 (案)
- 9、来賓から事業説明
- 10、諸連絡

第二部 講演会 特別企画 浅井 久仁臣 (あさい くにおみ) 講演会

演題 「世界の紛争地から復興を学ぶ」

The logo for KOCV (Kenya Overseas Cooperation Volunteer) features the letters 'kocv' in a bold, lowercase, sans-serif font. The 'k' is red, while the 'o', 'c', and 'v' are black.

平成22年度事業報告

1) 広報事業

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 件名(活動名) | KOCV ニュース編集・発行(広報事業) | 事業担当 | 主:事務局・北 |
| 実施日 | 5月・1月 | | 県内在住OV約 |
| 実施場所 | — | | 1,800名に配布 |
| 活動内容及び成果 | 年2回会員向けの情報機関紙を発行しています。具体的な活動報告及び活動予定を掲載しています。 | | |
| 件名(活動名) | ホームページ運営(広報事業) | 事業担当 | 主:光田 |
| 実施日 | 通年 | OB会参加者 | |
| 実施場所 | http://kocv.jp/ | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | 当会に関する情報アーカイブを提供する事を目的に設置しています。 | | |
| 件名(活動名) | メールシステム運営(広報事業) | 事業担当 | 主:光田 |
| 実施日 | 通年 | OB会参加者 | 314名 |
| 実施場所 | インターネット | 来客数 | — |
| 活動内容及び成果 | Free-MLという無料のネットサービスを利用しています。現在の参加者(加入者)は名です。 | | |
| 件名(活動名) | ビーチクリーンナップ | 事業担当 | 主:中西 |
| 実施日 | 7月18日(日) | OB会参加者 | 10名 |
| 実施場所 | 藤沢市 辻堂西海岸 | 来客数 | 60名 |
| 活動内容及び成果 | <p>かながわ美化財団の登録団体、Waversと2回目のタイアップ企画。協賛はフェアトレードショップHaya-hayと辻堂の老舗店の牧野青果店。</p> <p>このビーチクリーンはもともと夏にOB会活動が少なく、また地元の方々との交流企画も少なかったため、何か活動を通して、一般の方に協力隊や途上国への関心を持ってもらうことを目的として、企画されたもの。そのため、ビーチクリーンだけでなく、協力隊クイズを行ったり、フェアトレードの商品を紹介したりしている。</p> <p>今年は約60名の参加があり、高校生、地元サーファー、OB・OGのご家族、一般参加者など多彩なメンバーで、50袋以上のゴミを集めた。</p> | | |

2) 啓発事業

| | | | |
|----------|---|--------|---------|
| 件名(活動名) | 『国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2010』中学生の部一次審査 | 事業担当 | 主:竹内 畦地 |
| 実施日 | 5月~9月(一次審査10/24) | OB会参加者 | 22名 |
| 実施場所 | 一次審査:JICA横浜 | 来客数 | 応募2195名 |
| 活動内容及び成果 | <p>今年のエッセイコンテスト(中学生の部)では神奈川県で合計2195作品の応募がありました。これらを一般の方を含む22名の審査員で手分けしてそれぞれ1~2作品選び出し、10月24日(日)、JICA横浜に各自持ち寄ってエッセイの読み合わせ一次審査を行いました。当日ご出席いただきました計11名の審査員による読み合わせの結果、神奈川県から計14作品を選出することができました。</p> <p>また、後日これら14作品の内惜しくも2次選考を通過しなかった作品の内、計8作品を神奈川県OB会長賞として推薦しました。あらためまして今回審査にご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。今回中学生の部では多くの作品を応募いただき、審査させていただく側としてうれしい悲鳴を上げたところですが、一方で高校生の部では計226作品の応募ということで他県と比較しても少ない状況です。来年はもっと多くの高校生からの応募を期待したいと思います。</p> | | |

| | | | |
|----------|--|--------|---------|
| 件名(活動名) | 派遣隊員との意見交換会(壮行会) | 事業担当 | 主: スタッフ |
| 実施日 | 年間4回開催 | OB会参加者 | 数十名 |
| 実施場所 | 関内 | 来客数 | 数十名 |
| 活動内容及び成果 | <p>壮行会と歓迎会の日時と参加人数は下記のとおりです。</p> <p>◇22年度1次隊壮行会(6月16日(水)): 出発隊員19名、OV等3名参加。</p> <p>◇22年度上期帰国ボランティア歓迎会(8月6日(金)): 帰国隊員9名、JICA横浜所長、OV等7名</p> <p>◇22年度2次隊壮行会(9月10日(金)): 出発隊員15名、JICA横浜所長、OV等6名参加。</p> <p>◇22年度3次隊壮行会(12月11日(土)): 出発隊員8名、OV等10名参加。</p> <p>◇22年度下期帰国ボランティア歓迎会1月31日(月)</p> | | |
| 件名(活動名) | 帰国表敬訪問と歓迎会 | 事業担当 | 主: スタッフ |
| 実施日 | 年間2回 | OB会参加者 | 数十名 |
| 実施場所 | 関内駅前 | 来客数 | 数十名 |
| 活動内容及び成果 | <p>20年度3次隊、インドネシア派遣されていました、開成町在住の小野栄子です。1月に帰国し、県庁を表敬した日の夜、神奈川県OV会の帰国歓迎会に参加させていただきました! 2隊次合同の歓迎会だったので、帰国メンバーは20-2のシニアの方2人と20-3のジュニア2人、そして、神奈川県OV会の役員の方たちでした。派遣前の壮行会と比べ、こじんまりとした会でしたが、和気あいあいとした雰囲気、楽しいお酒と美味しいチーズフォンデュを頂きました。酒の肴はやはり任地での苦労話や面白ネタ。みんな様々なエピソードをかくし(?)持っていました。</p> <p>色々な方面で活躍されているOVの方たちがいるようなので、神奈川県OV会のネットワークを通して、日本で楽しいことが出来たらいいなと思っています。神奈川県OVの先輩方、これからよろしくお願ひします。色々な皆さんとお会いしたいと思っています。</p> | | |
| 件名(活動名) | JICAボランティア家族連絡会 | 事業担当 | 主: 畦地 |
| 実施日 | | OB会参加者 | 畦地 他 |
| 実施場所 | JICA横浜 | 来客数 | 数十名 |
| 活動内容及び成果 | <p>留守家族の方に任国の様子をすこしでも知ってもらうためのご家族と最近帰国した隊員の情報交換の場です。現地での写真などを紹介しながら、住居環境、食べ物など生情報が自由に飛び交う会話は時間を忘れてしまうほど充実していました。</p> | | |
| 件名(活動名) | KOCVパッケージ | 事業担当 | 主: 事務局 |
| 実施日 | 12月25日~30日 | OB会参加者 | 2名 |
| 実施場所 | セネガル(ケベメール) | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | <p>女性グループ Jigeen nu farlu (仕事にやる気あふれる女性たち) による女性教育プロジェクト 活動報告 16-2 セネガル 飯山 香・亮平を別ページに添付いたしました。そちらをご参照ください。</p> | | |
| 件名(活動名) | 小田原見学ツアー | 事業担当 | 小島 |
| 実施日 | 2011年2月19日(土) | OB会参加者 | |
| 実施場所 | 小田原方面 | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | <p>当日は、例年通り、神奈川県国際研修センターに研修に来ている外国人研修生にも呼びかけ、参加してもらい、KOCVの家族や友人他、東京OB会 会長の羽熊広太さん(彼には外国人への通訳をしていただき大活躍でした)も加わり、大盛況のツアーになりました。最初の訪問地は、鈴廣かまぼこ博物館。都合により、体験はできませんでしたが、見学の他、試食、お土産等のショッピングができました。</p> <p>次は、小田原市内にある老舗「だるま料理店」での昼食。天ぷらか寿司を選び、食べました。その後、すぐ近くの市民会館で、お菓子展をやっていたのでそこを訪問。珍しいお菓子や、お菓子による作品を見学し、試食やショッピングをしました。次</p> | | |

| | | | |
|----------|---|---------|--------|
| | に、小田原城見学。天守閣に入りました。時間があれば、隣接している歴史見聞館にも行きたいところでした。そして、最後の訪問地アサヒビール工場へ。休日のため、操業はしていませんでしたが、ガイドさんによる約1時間説明を受けて回り、その後今回の ツアーの目玉であるビールの試飲を楽しみました。 2年ぶりの見学ツアーでしたが、今回は遠出し、時間的に全部計画通り回れるか不安はありましたが、予想以上に道路が空いていて、移動に時間が かからず、スムーズに計画を実施することができました。参加者は、例年以上に多く、盛りだくさんの訪問地に大いに楽しむことができ、大成功だったと思います。 | | |
| 件名（活動名） | エッセイコンテスト表彰式 | 事業担当 | 主：高野他 |
| 実施日 | | OB 会参加者 | 約 10 名 |
| 実施場所 | ・ JICA 横浜 | 来客数 | 約 20 名 |
| 活動内容及び成果 | 東日本大震災の影響のため中止となりました | | |
| 件名（活動名） | 使ってください活動支援費 | 事業担当 | 主：事務局 |
| 実施日 | | OB 会参加者 | |
| 実施場所 | | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | 昨年度執行分はございませんでしたが、東日本大震災関連で案件が上がっています。 | | |
| 件名（活動名） | J E N E S Y S 神奈川公務員グループと議員との懇親会 | 事業担当 | |
| 実施日 | | OB 会参加者 | |
| 実施場所 | | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | 参加しました。 | | |
| 件名（活動名） | 第 12 回 港南国際交流ラウンジ祭り | 事業担当 | 主：畦地 |
| 実施日 | 2 月 27 日（日） | OB 会参加者 | |
| 実施場所 | 横浜市の上大岡駅内、港南国際文化センター | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | <p>KOCV は港南国際交流ラウンジの登録団体ですが、この年に一度のお祭りに参加するのは今回が初めてとなります。今回は、団体紹介と食販（手作りクッキーの販売）を行います。食販ブースでは調理ができないため、今回初めてクッキーをスタッフ数名で手分けして作りました。クッキーは 3 種類、ノーマルとコーヒー味と紅茶味です。砂糖とコーヒー、紅茶はそれぞれフィリピン、ペルー、インド原産のフェアトレード商品を使用しました。私にとっては慣れないクッキー作りであったので、2 週間前にみんなで練習を重ねてから今回精魂こめて作りました。</p> <p>お祭りでは外国の方々の日本語スピーチ大会や、世界の歌 & ダンスが楽しめました。</p> | | |
| 件名（活動名） | センターデー | 事業担当 | 主：長谷川 |
| 実施日 | 11 月 14 日（日） | OB 会参加者 | |
| 実施場所 | 横浜市二俣川 神奈川県国際研修センター | 来客数 | 700 人 |
| 活動内容及び成果 | 海外研修員や留学生と地域の日本人との交流をテーマにセンター・デーが 14 日、神奈川県国際研修センターで開かれた。ステージパフォーマンス、アジアミニ屋台、南米の楽器体験コーナー、各国展示・交流ひろば、太極拳、写真展などが開催されていた。ペルーOV が集まり、南米の楽器（16 種類）を用意し、来場者の皆さんに体感・体験してもらうコーナーと、ステージでケーナなど楽器演奏を楽しんでもらう企画を実施した。 | | |

3) 教育事業

| | | | |
|----------|--|--------|-------------|
| 件名(活動名) | 神奈川県 社会還元スキルアップセミナー | 事業担当 | 主: 山川、坂田事務局 |
| 実施日 | 年間2回 | OB会参加者 | 各回20名程度 |
| 実施場所 | JICA 横浜 | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | <p>帰国後、就職活動やボランティア活動などで自分が任国で体験してきたことを伝える機会はあるものの、「なかなか相手にわかりやすく伝えることは難しい!」と隊員OBは皆感じています。(よね?)</p> <p>1月29日(土) 9:20からのセミナーでは、午前中にJOCAの渡具知 愛里を講師に「ボランティア体験をわかりやすく伝えるノウハウ」、午後は19-4 コスタリカの船橋志摩子さんの出前講座実践と、帰国後横浜市に勤務している畦地会長と安養寺智さんの「就職活動で活かす!」のトークを行いました。</p> | | |

4) 一般事業

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 件名(活動名) | 第4回協力隊まつり | 事業担当 | 畦地 |
| 実施日 | 4月3日(土)、4日(日) | OB会参加者 | 25名 |
| 実施場所 | JICA地球ひろば | 来客数 | 1833名 |
| 活動内容及び成果 | <p>4月3、4日広尾のちきゅう広場におきまして、昨年に引続き「協力隊まつり」が開催されました。今年は事業仕分けの影響もあり開催自体が危ぶまれましたが、なんとか時期を前倒しして実施することが出来ました。</p> <p>その甲斐もあり、盛大に行われたと言いたいところですが、時期が早かったこと、募集説明会が同じ日に新宿でかぶっていたこともあり、大幅に集客が落ち込み、課題の多いイベントになりました。</p> <p>KOCVは1階にて食用バナナをつぶして揚げた「パタコーン」の販売およびJOCA森林ワーキンググループと共に丸太切りやバードコール作りを行う木工教室に出店しました。全体では来場者は大幅に減りましたが、木工教室など収容人員が限られていることもあり、丁度良い盛り上がりを見せ盛況でした。</p> | | |
| 件名(活動名) | あーすフェスタかながわ2010 | 事業担当 | 主: 吉永・長谷川 |
| 実施日 | 9月11日(土)・12日(日) | OB会参加者 | 10名以上 |
| 実施場所 | あーすプラザ(本郷台) | 来客数 | 数千名 |
| 活動内容及び成果 | <p>例年5月に行なわれていたあーすふえすたですが、今年は9月11日(土)・12日(日)に行なわれました。いずれも好天に恵まれて、お客さんの入りもよく大盛況でした。</p> <p>今回KOCVは丁度バス停の前に店を出し、カボチャ餅とビール、ジュース類の販売を行ないました。2日間の売上は11万3千円あまりで、カボチャ餅は割と早い時間に売り切れてしまいました。</p> <p>会場となっているあーすぷらざは4月からJOCAが指定管理を行なう事が決定しています。来年も出店したいと考えていますので、その節にはよろしくお願ひします。</p> | | |
| 件名(活動名) | 神奈川県森林づくり定着型ボランティア事業 | 事業担当 | 主: 前田・増田 |
| 実施日 | 通期 | OB会参加者 | |
| 実施場所 | 寄(やどりき)水源林(松田町) | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | <p>植樹祭、サマーキャンプ等を行いました。以下は秋のプログラムの様子です。</p> <p>かながわの森林づくりをテーマに青年海外協力協会の秋のプログラムが27日、やどりき水源林(神奈川県松田町)で開かれた。</p> <p>午前中の植樹では、イロハモミジ、コナラ、ケヤキ、ヤマボウシ、クヌギの苗木を植えていた。午後の作業では、丸太切り、名札作りをしていた。お昼には、地元の民宿で調理してもらった、鹿肉のシチューを味わっていた。</p> <p>参加者数は、千葉県や東京都からの人を含めて合計22名。</p> <p>今回の活動で印象に残ったことは、植樹は1日で終わりですが、毎年の草刈りや間伐など、これからが本番という点についてでした。</p> <p>今後も、50年後の森を想像しながら、毎月の活動を継続してゆきたいと思う。</p> | | |

| | | | |
|----------|---|---------|-------|
| 件名（活動名） | よこはま国際フェスタ 2010 | 事業担当 | 主：畦地 |
| 実施日 | 10月16日（土）、17日（日） | OB 会参加者 | 名 |
| 実施場所 | 横浜市中区の象の鼻パーク | 来客数 | 名 |
| 活動内容及び成果 | <p>『よこはま国際フェスタ2010』にて、KOCVは、JICA横浜ブース内の「国際協力よろず相談コーナー」に協力しました。JICAボランティアへの応募へ興味がある来場者に体験談を話したりしたわけですが、私も相談コーナーに座らせていただいて、楽しくお話をさせていただくことができました。その中でブースに来てくれた学生から「話を聞いて協力隊への興味が出てきました」と言われ、うれしかった反面まだまだ世間での協力隊の認知度が低いなと思いました。もっと出前講座などでJICAボランティアをアピールする必要があると実感した次第です。相談コーナーへの来場者数は下記のとおりです。</p> <p>◇10月16日 計14名（女性10名、男性4名） ◇10月17日 計22名（女性13名、男性9名） ◆二日間合計 計36名（女性23名、男性13名）</p> <p>また、よこはま国際フェスタは今年から舞台をパシフィコ（屋内）から象の鼻パーク（屋外）へと移したわけですが、人も多く、天気がよければ出展にはよい場所だなと感じました。来年はKOCVでぜひとも出展したいと思います。</p> | | |
| 件名（活動名） | 横浜国際フォーラム | 事業担当 | 主：中西 |
| 実施日 | 2月12日（土） | OB 会参加者 | 10名 |
| 実施場所 | JICA 横浜 | 来客数 | 20名 |
| 活動内容及び成果 | <p>例年、横浜国際フェスタの中で行われているセミナー部分が、今年は“フォーラム”として別日程で開催された。当会は、セネガル OB の飯山夫妻による「セネガル現地調査帰国報告会～布カバン一つが、セネガルのお母さん、日本人、セネガルの子ども達の笑顔を繋げる！」のセミナーを行った。</p> <p>セネガルについてクイズなどでいろいろ知れた、セネガルの端切れを使ったワークショップがよかったなど多数コメントをいただいた。</p> <p>フォーラム全体の2日間の講座参加者はのべ1310名、神奈川新聞でも取り上げられ盛況だった。さまざまな年齢やOB/OGに関連しない方々にも参加していただき、今後も積極的に参加したい。</p> | | |
| 件名（活動名） | やまと国際交流フェスティバル | 事業担当 | 主：長谷川 |
| 実施日 | | OB 会参加者 | |
| 実施場所 | 大和駅東側プロムナード | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | 震災の影響で、中止となりました。 | | |
| 件名（活動名） | 協力隊ナビ | 事業担当 | 主： |
| 実施日 | 2月12日 | OB 会参加者 | 6名 |
| 実施場所 | JICA 横浜 | 来客数 | 12名 |
| 活動内容及び成果 | <p>・フォーラムを間に挟み、室の他団体使用時間の都合上、実質1時間の中で会場12席を上回る18名が入り部屋が慌ただしかった。</p> <p>・特にナビだからどうだというわけではなく、いつもの活動の一環、延長線上で行う。</p> <p>・セネガルのバックの販売。同、布を使って、牡丹を作った。</p> <p>・広報は特に行わず口コミおよびフォーラム参加者が来場。</p> <p>相談内容</p> <p>・NGO活動を行うに当たって、その助成金の種類や申請方法および性格など。</p> <p>・学生や若い人達にとって、協力隊OB/OGに会う機会が少なすぎる。ほとんどが初めて会う人達。その為、上記機会を協働で企画する必要あり。等々</p> <p>セミナー前後1時間みっちり話しができ、時間が足りないくらいでした。</p> <p>簡単ではございますが、実感として、国際協力や協力隊に関心があるそうに対しても協力隊の広報が行き届いていないと感じました。今後とも継続的に行っていきたいと思います。</p> | | |

5) 組織強化事業

| | | | |
|----------|---|--------|--------|
| 件名（活動名） | 定例会 | 事業担当 | 事務局 |
| 実施日 | 毎月1回 | OB会参加者 | |
| 実施場所 | JICA横浜 | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | 議事内容はMLで報告しています。 | | |
| 件名（活動名） | 総会 | 事業担当 | 主：事務局 |
| 実施日 | 6月20日（日） | OB会参加者 | 約30名 |
| 実施場所 | JICA横浜 | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | | | |
| 件名（活動名） | 関東ブロック会議 | 事業担当 | 会長・事務局 |
| 実施日 | 11月20日（土）、21日（日） | OB会参加者 | 5名 |
| 実施場所 | 群馬県水上町ひがきホテル | 来客数 | 約40名 |
| 活動内容及び成果 | <p>今回のブロック会議は、5つのグループに分け、グループ討議という形をとり、「各県の活動報告と課題検討」というテーマで話し合い、最後にそれぞれのグループ別に討議結果発表がされました。グループ討議は、始めに自己紹介をし、役割分担を決め、本題に入りましたが、どのグループも大変熱の入った話し合いが行われたように思われます。私のグループでは、神奈川県で最近懸案になっている年会費と会員制度について、各県の取り組み方を詳しく説明してもらい、大変参考になりました。その他、各県OB会の組織化、活性化について、今後どのように取り組み、活動していったらいいか。また、協力隊ナビについての現状報告と、ナビ事態について、多くの意見交換が為されました。</p> <p>2日目は、JOCAとJICAの事業報告があり、それに対する質疑応答、全体討議が為され、無事閉会しました。</p> <p>来年の関東ブロック会議は、栃木県。再来年はいよいよ神奈川県ということですから、開催の際は是非とも皆様の協力をお願いします。</p> | | |
| 件名（活動名） | NGO会議 | 事業担当 | 高野 |
| 実施日 | ～10月27日まで | OB会参加者 | 1名 |
| 実施場所 | 神奈川県事業 | 来客数 | |
| 活動内容及び成果 | <p>10月27日に松沢神奈川県知事に2年間の任期で作りました、NGO会議の提言書を提出いたしました。概要は、神奈川県の記者発表及び県国際課のHPへの提言アップしていますので、参照ください。</p> <p>http://www.pref.kanagawa.jp/press/1010/063/index.html 国際課HP</p> <p>http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokusai/seisaku/ngo/ngo-index.htm</p> <p>外国籍県民会議、NGO会議ともこれからの地域社会がどうあるべきか考えて提言をあげています。時間も限られた中で、つたない、文章になっていることは承知していますが、皆様には是非一読して頂き、ご意見を伺いたいと思います。</p> <p>特に、4月からは（すでに発表になっていますが、）本郷台の「あーすぷらざ」がJOCAに指定管理されることが決定しています。今まで、提言をあげても受入れて頂けてなかったことでも、フォローアップ出来る環境になってきています。</p> | | |

※ 東日本大震災関連の活動(今期の活動を含む)

1. こころのケア・災害ボランティア育成講座に協賛 (浅野美樹・飯山香)

日程・場所：2011年4月9日(土) 10:00~18:00 町田 勝楽寺 (JR町田駅15分)

2011年4月23日(土) 10:00~18:00 同上

主催：(特活)地球市民ACT かながわ/TPAK

主担当：浅野美樹 (H18年度ボリビア村落) 副担当：飯山香 (H16-2年度セネガル村落)

参加人数：1回目17名(含むスタッフ3名) 2回目18名(含むスタッフ2名)

活動概要：

エモーショナル・リテラシー(感情の読み解き方)とセルフケア(支援者の燃え尽き予防対策)のワークショップ形式講座、炊き出しシミュレーション(タイラーメン)

内容詳細：

自己紹介(自己表現)、感情くじ引き(感情の読み説き方)、アクティブリスニング(サポートする時の大切さ)、劇(支援する時の大切なこと)、アイスブレイキング(体や声を使い、物がなくても出来るもの)、被災地での炊き出しのやり方等



写真：ワークショップでグループ毎に劇を発表 テーマ「被災地支援活動」

所感：

参加者はこの度の震災等の被害に対して、実際に支援を行う予定である人、自分自身が見えない心的ストレスを感じている人、何かしたいけれど何をしたらよいか分からない人など、様々な立場の人であった。私自身も参加して自分自身の心について考えさせられた。また、参加者も、短い時間の中で連帯感が生まれたこと、ネットワークができたことに喜びを感じてもらっている。5月開催の講座では、実際に被災地でボランティア経験を行った人も多く参加しており、生の情報を共有出来ている。

今後の活動：

7月までに合計10セット(同内容)で開催予定済。また、主催者側がメーリングリストを立ち上げ、参加者に対して支援情報を発信するネットワーク構築に活かす。また、今後、ステップアップした講座

も開催予定であり、長期的に持続可能な支援を目指す。

当会としては、子ども達対象の環境・栄養教育事業を行ってきた釜石地区の人々とのネットワークを活かし、スタッフが現地訪問調査を行い、今後は釜石保育園を支援していく。

2. 「東日本大震災復興支援チャリティーライブ・つくい逸店昼市」

平成9年度1次隊 パナマ 食品加工 若狭健一

平成23年4月30日（土曜日）、会場となった津久井湖城山公園花の苑地（津久井湖観光センター）は、やや風が強く吹いたものの天候に恵まれ、延べですが約800人ものお客様が来場して下さり、大盛況の中でイベントを開催することができました。ステージでは、バンドやダンスなど、7グループが出演し会場を盛り上げ、同時開催の「つくい逸店昼市（いつてんひるいち）」は、津久井の名産品などを販売し、多くのお客様で賑わっていました。また、有志の方々が客席の一角にテーブルを置き、いち早い復興を願って、来場者の方々と力を合わせて千羽鶴を折りました。

KOCVのメンバーの當間さん、柳本さん、坂巻さん、そして私若狭の4人はステージでジャンベの演奏をしました。客席にも約10個のジャンベを置き、お客様と一緒に楽しく演奏することができました。

会場内の募金や実行委員会のフリーマーケット、つくい逸店昼市の売り上げの一部などを合わせ、84,846円が義援金として集まりました。この義援金と千羽鶴、更にライブの様様を録画したDVDは、相模原市を通じて相模原市の友好都市である大船渡市へお渡しします。



今回のイベントは、復興に対してほんの小さな力でしかありません。しかし、多くの人々の気持ちがひとつになり、その思いが被災された方々へ届けば幸いです。

KOCVをはじめ、津久井観光協会様、津久井商工会様、（公財）神奈川県公園協会様など、お力添え頂いた全ての皆様に感謝いたします。どうもありがとうございました。

3. 東日本大震災で被災された方の心身の安寧を図るための支援活動(光田大輔)

活動場所:宮城県仙台市立六郷中学校(被災者避難所) <http://www.sendai-c.ed.jp/~rokugojh/>

日程:5月3日(火)～5日(木)

担当:主担当:光田 大輔(11-3 ブータン SE) ・副担当:吉永 加那(13-3 コロンビア 栄養士)

活動概要:

被災者の心身の安寧を図るべく、被災者及び現地ボランティアの方々に鍼灸治療を行うと共に、(施術者がいなくても自身で健康維持・改善ができるように)「自分で出来る温灸療法、及び各種健康法」を伝授する。

※陶器灸とは、陶器でできた温灸器によりツボを刺激したり患部を温めることにより、疲労回復や病状の改善を行う治療法を言います。

○竹串療法 ～ 自律神経調整法

※竹串療法とは、新潟大学の安保徹先生と福田稔先生が開発した自律神経免疫療法のことを言います(「竹串でツボ押しの薦め」を参照)。今回は竹串の代わりに爪楊枝を寄贈しました



陶器灸セット

活動報告:

5月4日はAM8:30頃に六郷中学校に到着し、受付で挨拶を済ませた後、鍼灸治療及び温灸療法・健康教室のための準備を始めました。鍼灸治療は全部で10人に行いました(施術中、吉永さんは私のサポートをしてきました)。避難所生活を始めて約2ヶ月なろうとしており、心身の疲労もかなりたまっているのでしょう。施術させて頂いたほとんど全ての方が慢性的な腰痛、肩こりに悩んでいました。中には腰痛・肩こり以外の重たい症状を抱えた方もいて、もう少し継続的な治療が出来たらと思いました。

治療の合間に、温灸療法及びその他健康法の説明をしました(計3回)。



温灸教室の様態①



温灸教室の様態②

温灸教室では、被災者の方にモデルになって頂き、温灸器(陶器灸)の使い方、及び疲労回復のための温灸療法について説明をしました。また私たちが帰った後も自分たちで出来るよう、陶器灸10セットを寄贈しました。

更には以下の資料をA1サイズに拡大コピーし、それらの説明を簡単にすると共に、他の避難所の分も合わせ5セット寄贈しました(次頁の写真参照)。

- ・竹串療法
- ・緊急災害時のタッピングセラピー 2枚 (TFT :Thought Field Therapy 思考場療法)

→ 地震のトラウマ、恐怖症、不安等を消去・改善するのに役立ちます。

・口呼吸の修正法 その①、その②

→ 口呼吸は万病の元と言われています。免疫力を低下させ様々な病気を引き起こす要因となります。それを治すための体操法の資料

・アニマルセラピー（猫の写真）→ 見ているだけで自然と笑顔になってしまう笑い猫の写真（心のケアとして）

これからどれくらいの期間、避難所生活が続くか分かりません。今現在でも心身の疲労はかなりのものと思われませんが、更に数ヶ月続く場合には何かしら自分で体調を整える術を見出す必要があると思います。その一助として、私や他の施術家がいなくても、自分で健康を回復・維持するのに役立つ方法に関する資料をお渡ししました。鍼灸治療、温灸療法・健康教室の全ての活動、そして片づけを終え六郷中学校をあとにしたのが20:00頃でした。

翌日5月5日(木)は、AM5:30頃にホテルを出て被災地の状況を見に行きました(下の写真参照)。この地に多くの方が亡くなったことを思うと、とてもやるせない気持ちになり、また現状を見ると復興に至るには多くの時間が要すると思いましたが、日本の力を信じたいと思います。

補足 ~ その後

本来でしたら以上で活動報告が終了する筈でしたが、5月7日になって今回の支援活動をアレンジしてくれた仙台在住の友人から、寄贈した全ての陶器灸セットをお返ししたいと連絡がありました。

理由は使う人がいないからとのことでしたが、避難所での火器使用の問題もあったのかもしれません。勿論、私自身の説明が拙く、温灸療法の効果を実感させられなかったのかもしれません。更には、陶器灸がどう言う物が予め資料を提示し、陶器灸の効果(体験談)もお伝えしてはいましたが(<http://blog.goo.ne.jp/suzunobo18/e/010f28c79e1bc7dd809fa532725d8ed2>)、事前の説明・調整が十分でなかったのかもしれません。

そこで誠に勝手ながら、私に陶器灸療法を教えて下さった静岡県在住の鈴木はり灸院 院長の鈴木先生が、4月末に岩手県岩泉町で被災者のために陶器灸教室を開いていたので、鈴木先生経由で下記岩泉町の役場に、青年海外協力隊神奈川県 OB 会からの寄贈と言うことで、陶器灸全10セット寄付致しました(OB 会には事後承認)。

岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉字森の越4-14

岩泉町社会福祉協議会

なお後日連絡があり、OB 会より提供した陶器灸セットを用いて、6月3日に岩手県岩泉町の被災者の方々に陶器灸教室を開催されたとのことです。



竹串療法、TFT療法、アニマルセラピー



被災地

※ 参考資料 事業仕分け(神奈川県から事業を評価されました)

いろいろと話題になっている事業仕分けではございますが、

当 KOCV も神奈川県から頂いている支援経費が、事業仕分けの対象になっています。チーム B の 9 人の委員のコメントがございます。

評価は 4 段階で、A は、もっと事業を充実させろ、B は、現状維持、C は見直し、いわゆる見直しで、D は廃止です。

委員の見解は A:4 名 B:1 名 C:1 名 D:1 名という高評価となる結果ですが、中身が重要です。特に、D のご意見には公開の場で反論したい事もございますが、振り返ってみると、KOCV ニュースや HP でももっと事業についての意義や目的を高らかに掲げた方が良かったのではないのかとも思いました。評価の理由を拝見する限り、県民の KOCV に対する期待もあるようにも思うのですが、どの様にお感じでしょうか。

| | 評価 | 理由 |
|-----|------------|--|
| B-1 | A (充実) | 経費が貧弱すぎる。そもそも、グローバル化、国際化の時代であり若者のグローバル化教育の一環でもありより充実すべし。予算の2ケタから3ケタの増額が必要です。 グローバル化の時代、国際人を多く育成する、日本に理解ある国を増やす・若者の国際化教育が国力の一つの目安でもあります。事業経費と事業内容が貧弱すぎる。経費捻出は、県職員の2から3割削減、県議会僧都(総数?)の5割削減と各平均年俸の3割カットで実現できます。 |
| B-2 | A (充実) | 国際協力特に人的交流は今後とも非常に重要であり、より活発化が望まれます。海外協力経験者は自分たちの経験を生かして良い面、悪い面、改善点等をしっかりと後に続く人達に伝えてほしいと思います。治安問題を抱えている国や地域も多いですが、これらの情報もしっかり得て、現地で把握した実態を日本に持ち帰り国や県に提言できるように推進/指導してほしいと思います。 |
| B-4 | A (充実) | 厳しい経済環境ではありますが、国際化・ボーダーレスの流れは止めようもなく日本としての国際貢献を果たしていくうえでの必要な事業と思います。 |
| B-6 | B(現状維持) | 国際社会の中で、日本がよく協力してくれているという評価を得るためにも、神奈川県からより積極的に活動をしてください。 |
| B-7 | C (見直し) | 過年度の活動成果を要因分析して次年度につなげる手順を確立する事。平成 17 年～21 年に 455 名の隊員の派遣が出来た要因は何か?限られた予算を「派遣先で神奈川県を知って貰う」事に使う必要は無いのではないか?「日本から来た」ことを知ってもらえれば十分ではないか。若し、OB に対する「ご苦労さん」的な要素が有るのなら、この部分は削除すべきである、何故なら全ての国民は夫々の立場で「精一杯の生き方」をしているのだから! |
| B-8 | D (廃止) | そもそも本事業の目的である県の国際協力及び国際化ということが、県民の税金を使ってやるべきことか、地方自治に関連するののかという点についても、根本的な疑問なしとしないが、その点についてはあえて触れない。 仮に前段の目的を是としたとしても、本事業によるOB会への助成金の支出が、如何にして、その事業目的である「県の国際協力及び国際化」に資するものか、理解に苦しむ。 OB会の活動は、当該団体のホームページを見れば、植樹・海岸清掃・協力隊員の壮行会・同帰国歓迎会等であって、県が「国際協力及び国際化」のために県民の税金を使ってまで助成すべき活動とは思われない。 むしろ、草の根からの国際協力を目指すならば、協力隊の活動が終わった人間ではなく、これから協力隊員になる層を育成することに向けられるべきであって、例えば、協力隊OBを初等中等教育の現場に派遣して、わが国も戦後復興に当たって他国や国際機関の支援を受けたこと、世界中で日本人がさまざまな活動をしていること、それらが国際社会の平和と発展にどのように意義のある活動であるかを、活動の実態を交えて教える等の他の事業によって実現すべきである。 したがって、漫然と、事業目的に対する費用対効果の不明なOB会活動への助成金の支出を継続すべきものではないと考える。 |
| B-9 | A (充実) | 一歩進めて、JICA(JICA)より費用の補填を受けられるような活動の充実、拡大に向けて努力を望む。 |

使ってください活動支援費

会員が主体的に企画実施する活動（他団体主催でも可）に対して、支援および助成を行う。

最低2名参加するものを対象とする。（主・副担当連名による申請）

- **1(活動支援)**：県内各地区で協力隊経験を地域社会へ還元できる活動の機会を増やす。国際交流・協力隊広報・イベントへの参加・開発教育・ESD学習会・等々
- **2(懇親)**：活動を通して地域内在住会員の繋がりの強化をはかる。飲食費にも支給する。
- 1案件につき30,000円以内の助成を行う。先着順。
- KOCVの立場は主催・共催・後援・協力のいずれか、参加案内を極力配布し会員の参加を呼びかける。（「KOCVニュース」・ML・DM発信用ラベル・実践者ネットワークを活用）
- 主担当は会計報告を事務局へ行う。
- 下記必要事項を事前に事務局へ主担当と副担当の連名で申請。副担当が特に決まっていない場合はスタッフから選ぶ。
- 活動終了後はML及びKOCVニュースへ記事として簡単な報告を掲載。事務局は活動終了後に次年度以降も継続するか等活動状況を審議する。
- 活動名・日程（または予定時期）・場所・時間・主担当・副担当・参加見込人数・会員へ案内するための活動概要・支出項目・金額・KOCVの立場・活動における主担当の立場等様式自由、極力煩雑にしない。

神奈川県森林づくり定着型ボランティア事業

JOCA×KOCVでは今後、植樹をはじめ多くの活動を予定しています！！

I. 森林管理活動

| 活動予定月日 | 活動予定内容 |
|----------------------------|---|
| 4月、6月、7月、9月、11月 (月1回程度) | 【植樹区画・草刈と整備作業】 平成22年度に植樹をした川沿いの区画の草刈と整備作業を行う。 |
| 5月 月1回程度 | 【遊歩道散策と遊歩道活用計画の策定】 遊歩道内の散策後、魅力ある森林作りのための遊歩道活用計画について計画を行う |
| 10月 | 【植樹イベントの実施】 一般に参加者を募り、成長の森区画での植樹イベントの実施を行う。 |
| 3月 | 【管理区画のフィールド調査】 管理区画で行った間伐、植樹について、その効果についてフィールド調査を行う。 |

II. 環境教育活動

| | |
|----|--|
| 7月 | 【サマープログラムの打ち合わせ】 8月に実施予定のサマープログラムの下見とプレ実施を行う。 |
| 8月 | 【サマープログラムの実施】 地域の小学生を対象としたサマープログラムを実施する。 |

III. 地域交流

| | |
|---------|---|
| 10月 | 【芋焼酎作りへの参加】 寄地区の住民が進める芋焼酎のための芋掘りイベントに参加し地域交流を深める。 |
| 12月又は1月 | 【地域発見ツアーの実施】 寄地域の文化・伝統に触れるため、スタッフだけでなく、一般にも参加者を募り地域ツアー（1日）を実施する。 |

特別企画 浅井 久仁臣(あさい くにおみ) 講演会

「世界の紛争地から復興を学ぶ」

「包囲攻撃」「破壊し尽くされた街」「難民キャンプの笑顔の少年」「自由な往来を許さない隔離壁」
「指導者アラファトとの友情」「阪神・淡路大震災」そして「東日本大震災」
戦場取材を続けてきたジャーナリストとして、震災後の復興に携ったヴォランティアとして、そして
教育者としての視点から復興の過程を検証します。

そして、我々途上国で協力隊活動を行なってきたOB/OGが、未曾有の災害を前にして、これから何
が出来るのか。すべきか。行動するためのきっかけにしたいとの想いで講演会を企画しました。

プロフィール

岡崎市出身。1973年、米国の「AP通信」入社。1977年2月、さいたま市に英会話スクール開校。
フリーのジャーナリストとして、レバノン内戦を取材。1982年、TBSの契約特派員として、レバノン
の取材を継続。1991年、TBSの報道局と社会情報局の特派員として契約し、湾岸戦争を取材。1993年、
数度にわたり旧ユーゴスラビア内戦取材。1995年1月の阪神淡路大震災の救援活動で知り合ったメン
バーと防災・災害支援ボランティア団体『ACTNOW(今こそ行動を)』を設立(2006年活動終了)。2002
年、戦火のパレスチナに入り、イスラエル軍の包囲下にあった(アラファト)議長府や虐殺疑惑直後の
ジェニン難民キャンプに潜入取材、TBSやTV朝日の報道番組で発表した。その後、メールマガジン発
行者、ブロガーとしての活動に移行。2003年春、「メディア塾」を東京都内に開設。



著作 書籍

「レバノン内戦従軍記」(三一書房、1977年)

「パレスチナは戦争館一硝煙の街角15年のグラフィティ」(情報センター出版局、1985年)

「魔術的カケヒキ学—国際舞台で磨いた交渉術のノウハウ」(センチュリープレス、情報センタ
ー出版局、1986年)

雑誌記事

「モロ民族独立闘争に栄光は」(「現代の眼」1976年6月号)

「レバノン内戦を追って-1・2-タール・ザータルの殺戮」(「現代の眼」1977年3・4月号)

「レバノン内戦を追って-3完-アブデル・ハミド氏に聞く--PLOはいまなにを望んでいるか / インタビュー アブ
デル ハミド ; インタビュー」(「現代の眼」1977年5月号)

「二極化進むパレスチナ解放運動--協調路線に反発する青年層」(「朝日ジャーナル」1977年10月号)

「ヨルダン川西岸地区ルポ--救急医療活動も妨害するイスラエル軍」(「Asahi journal」1988年3月18号)